

## 地区協議会と新宿区民会議との意見交換会（発言概要）

平成 18 年 3 月 25 日（土）  
午前 10 時から 11 時 40 分  
区役所 5 階 大会議室

【参加者数】区民会議委員：16名 地区協議会委員：45名

【開催目的】「協働と参画」の大きな柱として活動している両組織のメンバーが、これからの新宿区のあり方や地域での課題等について、意見交換を行う。

地区協議会委員は、組織の代表としてではなく、自由に意見交換を行なうこととした。事前に下記の6テーマを設定し、テーマごとの意見交換と全体報告を行った。

【全体報告】（概要）

### 〈1〉 環境・まち美化

地区協議会の皆様のご意見と区民会議第4分科会での検討内容が非常に近いと感じた。出た意見としては以下のとおり

「放置自転車」

最も長い時間、意見がでた問題は「放置自転車」であった。

- ・ 自転車には乗らない
- ・ 駐輪場をきちんと整備するべきである
  - 事業者、自転車販売事業者に対しても協力を求めるべきである
- ・ 四谷地区等で行われている、歩道と自転車をレーン別に分けている方法を、全区で展開したらどうか

「みどり」

- ・ 近年、屋敷林がどんどん減っている。

「道路」

- ・ 抜け道を規制する。
- ・ 生活道路は、原則としては人が歩く道路である。

「学校跡地の活用」

- ・ 粗大ゴミ再生品の展示場として活用する等、有効利用を

「ゴミ」

- ・ 生ゴミについては、地区全体でリサイクルできるシステムを考えられないか。

「全体として」

- ・ 環境を守るのはモラル。区民のモラルをいかに高めていくか。
- ・ 本日の意見交換会で出た意見を踏まえ、地区協議会、区民会議で引き続き考えていきたい。

## 〈2〉 子育てと多世代交流

区民会議第1分科会の中間発表の要点を報告いただき、これに対して、いくつかのテーマに分けて意見交換を行った。

「学校教育」

- ・「スクールコーディネーター」「学校評議員」等さまざまな制度があるが、本気で取り組んでいるのか。もう少し地域との交流があるべきではないか
- ・「PTA」がしっかりしていれば、学校と一緒に問題解決に取り組んで行けるのではないか。「PTA」をしっかりとした強い団体として認知する必要があるのではないか。

「青少年」

- ・親たちがあまりやりすぎているのではないか。親が振り回しすぎなので、むしろ子ども自身にまかせたらどうか。

「地域との連携」

- ・各地域で多世代交流について、いろいろと議論が行われている。しかし、当事者である親は昼間が忙しく、高齢者世代は夜はちょっときついということで、別々に議論している点が難しい。しかし、取り組みが始まったという事は重要である。
- ・今、私たちはこういった点で困っているということを真剣に語りかけると、地域は、「そういう機会をまっていた。」と応えてくれている。働きかけが、地域の方を動かす力となる。
  - ・働く親が多いが、病気の時が一番困る。病児保育が足りない。医療費補助ももう少し必要。
  - ・地区協議会では、地域の関連団体のネットワーク作りが課題となっている。縦割り行政を打ち破るしかけが必要。
- ・区民会議の具体的な提案を期待している。

## 〈3〉 安全安心

- ・区民会議の中間報告の中では、防犯について取り上げていなかった。
- ・地域でのコミュニケーションが必要。
- ・地域、地区でボランティアのパトロールを実施する。
- ・街を明るくして、安全マップを作る。
- ・地域の安全はまちづくりから始まる。
- ・今日テーマになっていること全てが安全・安心に関わっている。
- ・本日のような交流の場をもっと増やしてほしい。
- ・直ぐに解決できないことでも、地道に取り組んでいく姿勢が必要。
- ・効果的な情報提供の場をどう作っていくかが課題。

#### 〈4〉 協働・参画・コミュニティ

「区民会議」は概念的なところをおさえる、「地区協議会」は実際の地域での活動を担うという点を確認した。

両方に関わっている参加者が多かったので、意見交換というより、もう一度「協働・参画・コミュニティ」を考えた。

- ・「コミュニティ」「協働」とは何かをどの程度意識しているか。
  - ・住民には、まちの課題を積極的に発信していこうとする意識がないのではないか。
  - ・核になる組織があっても、メンバーが同じ顔ぶれである。行政も新しい参加者をあまり見つけようとしていない。
  - ・町会の加入率が低い。
  - ・「地域センター」が設立の意義どおり機能していない。
  - ・「協働」を行政のアウトソーシングとしか理解されていないのでは。
  - ・自分たちのまちの課題を話し合い、解決していくための連携の形が協働
  - ・地区協議会が核となって活動することが望ましいが、参加するメンバーが大事。
  - ・町会だけでなく、様々な方面からメンバーが参加できる形が望ましい。
  - ・まちの暮らしに応じたつながりを作り、地域の拠点となる場所を作っていく、自分たちのまちの課題を見つけていく。
  - ・区は良き調整役として関わっていく。
- ・今日の意見交換の内容を、区民会議の話し合いに活かしていきたい。

#### 〈5〉 まちづくり

マスタープランを中心に話し合いを行った。

- ・このままでは、ただ計画を作っただけで終わってしまうのではないかと。そうしないためにはどうしたらいいか。
- ・現場のまちを見ないで作っている部分が多いからではないか。
- ・地区に分かれて、マスタープランについて話し合った結果を、新宿区をリードしていくものとするためには、地区協議会や区民会議が一つになることが必要。区のパートナーとして、発言力を高めていく。

#### 〈6〉 高齢者

まず、区民会議と地区協議会との役割分担として、区民会議はこれから10年後、20年後の区としてのあるべき姿を考え、地区協議会は実際にその実現を担っていく役割を果たすということを認識した。

- ・新宿区では高齢者に関する問題に対する関心は高い。

- ・高齢者クラブ等既存の組織もさまざまな取り組みを行っているが、参加者が増えず、高齢化している。
- ・高齢者が段階の世代の方が活動しやすい場所が少ない。「いきいきサロン」等活動しやすい「居場所づくり」が必要
- ・今後高齢者が増加することを考えると、活動拠点として、現在ある施設だけでなく、学校等の活用が考えられないか。

区民会議が終了後、検討内容が活かされるよう地域に帰って活動していきたい。そのために開かれた地区協議会であってほしい。

また、こういった交流の機会を作ってほしい。